

### 第三者評価結果

事業所名：コンビプラザ橋本保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な計画は「赤ちゃんを育てることが幸せだと思える社会」という法人のビジョンに基づき、保育目標を立てている。今年度は保育目標について全員で話し合い、各自の保育への思い、子どもへの思いを共有しつつ設定している。子ども達にどのように育てほしいか、子どもは人との豊かな関りによって様々な事を学び、成長していくことを根底におきながら、意見を出し合いより分かりやすい目標となった。さらに思考を広げ、子どもの発達に沿ったクラス目標が立てやすくなり、また保護者への発信を年度初めに行ったことで保育に関心を持ち、理解を深めてもらえるように取り組んでいる。</li> <li>・年度の状況により柔軟に変更できるようにしており、長時間保育、アレルギー対応、支援児に対しては特にその年度にあった対応を心がけている。</li> </ul>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児と幼児は可動式扉で仕切り、0歳児と1歳児は一つの空間を柵で仕切り使用している。窓に面しているので日当たりが良く暖かく窓を開けて換気を行うこともできる環境である。</li> <li>・完全に仕切られた保育室ではないことで廊下から保育室の様子が見えやすく、他のクラスの保育の様子が見ることができる。園全体で保育している暖かな雰囲気となっている。子ども達も触れ合いを心地よく感じ、楽しみながら生活できる空間となるよう工夫している。</li> <li>・廊下の曲がり角には危険防止の意味も含め、足形を貼っている。子どもの危険回避の意識を高める要素があり、友達同士で声をかけ合っている様子もある。</li> <li>・保育室の環境に基づいた安全点検表を作成し、週明けに点検、不備があった場合は早急に対応し安全維持に努めている。</li> <li>・子どもが落ち着いて過ごせるように、必要に応じて事務所や休憩室を使用したり、静と動の遊びができるように遊びのコーナー作りの工夫などを行っている。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもにあったかもう一つのお家」である保育園を目指し、家庭的な温かさを大切にしている。特に乳児は自己表現がまだ十分ではないので、ゆったりと穏やかなかわりを積み重ね子どもを理解しながら信頼関係を築き、子どもの欲求を受け止めていくことで安心して過ごし成長できるように心掛けている。</li> <li>・様々な家庭状況があることを把握して、子ども一人ひとりとかわり言葉がけや援助の仕方に配慮している。</li> <li>・コロナ禍においては、職員のマスクをしての保育となり、声や表情に気を付け保育をしている。言葉遣いについては、見本になるので声の大きさなどについても職員同士で声をかけ合うようにしている。年齢に応じて分かりやすく伝えるように配慮している。</li> <li>・人権擁護のセルフチェックを行うことで子どものかわり方、言葉の使い方など改めて保育を見直す機会を取り入れている。子どもと寄り添う意味を考え直すきっかけとなっている。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりの成長、発達に即したかわりを大切にしながら、援助や見守りを行い、月齢や年齢では考えず、個々に対応をえられるようにしている。</li> <li>・生活習慣においては興味を持った時が良いタイミングと捉え、その時を見逃さず、子どもの思いや気持ちに寄り添いほめたり励ましたりしながら意欲的にとり組めるような援助を心がけている。乳児の着替えは時間をかけて見守ったり、午睡明けにトイレに誘ってみたりしながら個々のペースに合わせて対応している。3歳児クラスに進級すると準備の仕方も異なるため丁寧に伝え、ボードに写真で示すなど視覚でもわかりやすく工夫している。ロッカーの片付けなども意識できるように一緒に片付ける日を決めて取り組んでいる。</li> <li>・年長児は1月から就学に備え午睡をせずに好きな遊びを楽しんだり、体力作りも兼ねて散歩に出かけたり、栄養士と一緒に企画から取り組み午後のおやつ作りを行うなど、卒園まで日々をより充実させ自信につなげることを目標としている。</li> </ul>	

<p>A-1-(2)-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	b
---	---

<コメント>

- ・各クラスにおいて年齢や発達にあった玩具、教材を用意し、コーナーなど子どもが自ら好きな活動を選択できる環境を整え、子どもが自ら取り出したり、片づけができるように配慮している。
- ・幼児クラスは大きな箱に入っていて一人では取り出せない玩具もあり、友達と協力して運ぶ姿も見られている。
- ・なつまつりや運動会などの行事においても、どのようなことをやってみたいかの話し合いから始まり、使用する廃材を探したり協同で取り組めるように援助している。
- ・近隣の県立高校と交流し、高校に出かけて行く交流もしているが、現状コロナ禍では中止とし、近隣園との交流も控えている。
- ・公園へ出かけ、桜やどんぐり、バッタやトンボ、セミなど季節の花や植物、昆虫などの触れる機会を設け自然を感じられるように配慮しており、夏には水遊びをすることもある。週1回の体育指導では鉄棒やマットを使用して体を動かす機会がある。
- ・運動会は公民館多目的室にて昨年は5歳のみ、今年は幼児クラスのみ保護者2名参加のもとで実施した。発表会などは配信できるように準備を進めており、子どもの意欲を損なわないようにと職員間で検討を重ねている。

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・一人ひとりの発達に応じて遊び、食事、睡眠はそれぞれのペースを大切に保育している。様々なものに興味を持ち自ら関わろうとする意欲を高められるよう、担当保育士との愛着関係を何より大切な基盤としている。月齢に合わせて絵本、音の出るもの、つかみやすいものなど手作り玩具も多く準備している。
- ・月齢が高くなってくると、1歳児の生活スペースに行っで遊んでいる姿を見たり玩具に触れ楽しんだり活動範囲を広げている。
- ・送迎時、必ず会話することを基本に、連絡ノートで1日の様子を伝えることで家庭と保育園での連絡を密にし関係を構築するようにしている。離乳食、睡眠、排せつなどについてきちんと伝え、また離乳食の進め方はしっかり話し合いながら進めている。不定期ではあるが玄関のクラスボードでも食事、遊びの様子をドキュメンテーションで伝えるようにしている。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・自分でやってみよう、やりたいという気持ちを大切に、できないことがあっても保育者は落ち着いて対応し、やさしく問いかけたり、励ましたりしながらできたという喜びに共感し、自信につながれるように援助している。自我の芽生えから友だちとの関りも増え、玩具の取り合いなど自分の思いを言葉で伝えられない時には、仲立ちし気持ちに丁寧に寄り添うようにしている。また、順番などのルールも少しずつ伝えはじめ仲良く遊べるように援助している。
- ・周囲の人、環境にさらに興味を持つ時期なので、クラスの友達、保育者だけでなく、異年齢の子供たち、栄養士、他クラスの保育士などとも日常生活の中であいさつしたり触れ合う時間を大切にしている。
- ・2歳児は年明けから幼児保育室で午睡をしたり、朝夕の時間を過ごし、幼児クラスへの移行準備をし、何より幼児との交流も大切にしている。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

- ・幼児は異年齢児保育を実施しており、年長児の取り組みを年少、年中児がそばで見ることによって自分もやってみよう、自分もできると前向きにとらえて取り組むことができるよう援助している。やりたい気持ちがあってもすぐに行動する子どももいれば、慎重に行動する子どももいるので、一人ひとりのペースで挑戦できるように配慮している。その中で結果だけではなく家庭も大切なので、それをほめたり認めることで自分は見守られている安心感の中で意欲的に生活し、自己肯定感を高められるように援助している。
- ・年長児はハーモニカの練習、卒園にむけた制作、お楽しみ会の計画などもあり、クラスごとの活動も大切に取り入れるようにしている。その際にはクラスだけで保育室を使用できるように、他のクラスは外遊びをするなどの工夫をしている。なわとび達成表を作成し目標に沿った取り組みも行っている。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

- ・子どもの特性に応じた配慮、援助に努めており、気持ちのコントロールが苦手な子どもが園内で安心できる場所を見つけたら落ち着くまで見守ったり、子どもの意志による活動への参加に臨機応変に対応できるようになど、職員間で連携している。
- ・保護者と日頃の送迎時のやり取りだけでなく定期的に面談を実施しており、保護者、担任、施設長と面談することで、子どもの様子、成長の姿を共有し、気になる姿にどのようにかかわっていくかを話し合い共通理解に努めている。話し合うことで、お互いに相談しやすい関係づくりができ、信頼関係を構築することができている。そのような環境の中で子どもも安心して自分らしさを発揮できる場となるように取り組んでいる。
- ・行政の療育相談、支援施設とも保護者の了解を得たうえで連絡を取り合い、支援の場を深めている。園内においては発達支援コーディネーターの育成にも取り組んでいる。

【A10】 A-1-(2)-⑨  
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

- ・長時間保育では2歳児から5歳児までが一緒に過ごし、その時の人数や年齢配置により、子どもの興味を持った遊びを展開できるようにしている。遊びに合わせてマットを敷いたり机を組み合わせスペースを作ったりしているが、乳児もいるため小さな玩具は片付けて安全に遊べるように配慮し、その理由についても子どもに説明している。
- ・長時間保育については休息をとることも大切と考え、午睡や遊びの中でも静かな場面を作るなど工夫し、絵本を読んだりスキップを取るなど子どもの様子によって対応している。また、長時間保育の時だけ楽しめることを保育者と一緒に考えるなどの工夫もある。
- ・延長保育にて19時以降のお迎えの子どもには補食を提供している。(19時までの子どもには麦茶のみ提供)
- ・職員体制はシフトによるので子どもの体調、その日の様子など保護者とのやり取りについては園児ボード(日報)を共有し口頭でも引継ぎを行っている。

【A11】 A-1-(2)-⑩  
小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

b

<コメント>

- ・現在の子どもたちの過ごしている延長に小学校生活があり、人とのかわりが基盤となると考え、子ども同士、保育者とのかわりの中で対話や経験したことなど家庭がとても重要と考えている。子ども同士の話し合いでは内容があいまいだったり、時には気持ちが緩んで進まなかったり、ぶつかり合うこともあるが、その積み重ねがお互いの考えを知り、自分の思考も少しずつ広げていくことができるように援助している。その時の子どもたちの豊かなかわりあいのペースを崩さないよう、保育者の思いを出しすぎないようにかわっていきことを心がけている。
- ・保育要録は幼児担任が作成している。主観的にならないように客観的に記録作成するよう取り組んでおり、施設長が最終確認している。
- ・コロナ禍において小学校との交流会、見学などは昨年より中止となっているが、小学校との話し合いによって小学校の様子などを収録したDVDを作成してもらうことができた。年長児がDVD鑑賞によって小学校の様子を知ることができるように取り組んでいる。

A-1-(3) 健康管理

第三者評価結果

【A12】 A-1-(3)-①  
子どもの健康管理を適切に行っている。

a

<コメント>

- ・園児の健康状態は「保育所における感染症対策ガイドライン」「相模原市の健康診断マニュアル」に基づき把握に努めている。登園時の視触診による健康観察内容や保護者からの健康に関する伝達事項はクラス職員間で報告、共有し確認漏れのないように努めている。
- ・看護師による健康観察も行っており、各クラスを巡回し子どもの体調確認を行っているほか、消毒指導、感染症対策の共有などにも努めている。
- ・既往症や予防接種については担任より保護者に声をかけたり、予防接種を受けたときには口頭や連絡ノートで伝えてもらい情報を得ている。
- ・毎月発行の「ほけんだより」や健康教育実施時のドキュメンテーションなどを通して、保育園での健康への取り組みを伝えている。
- ・SIDSについては職員会議での周知と午睡時の健康チェックを行い予防に努めている。保護者には入園時配布する「保育園をご利用するにあたって」に記載し入園説明の時に詳しく伝え、11月予防月間にはポスター掲示をしている。また、職員に向けては看護師によるSIDS研修、嘔吐処理研修、外部講師による心肺蘇生研修を実施し意識を高めている。

【A13】 A-1-(3)-②  
健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。

a

<コメント>

- ・全園児の健康診断、健康診断、歯科検診の結果は記録、ファイリングしている。看護師から各クラスの担任に報告し、いつでも見ることができるようになっている。
- ・歯科検診の前後に幼児クラス対象に噛むこと、歯の話(歯の生える順番や形の違い、動物の歯との違いを学んだ)や、5歳児クラス対象に虫歯になる原因とその予防、乳歯から永久歯への生え変わり、6歳の臼歯の萌出について健康教育を保健計画に取り入れ実施している。
- ・健康診断、歯科検診の結果は毎回保護者に紙面で伝えている。医師、歯科医師からのコメント(かかりつけ医に相談/様子をみてよい)も伝えている。特にう歯については場所、本数とともに早期受診をすすめ、磨きにくい6歳臼歯が生えてきた子どもについては保護者に仕上げ磨きの大切さも合わせて伝えている。

【A14】 A-1-(3)-③  
アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。

a

<コメント>

- ・アレルギー疾患ある子どもに対しては「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を基に、また食物アレルギーを持つ子どもに対しては相模原市保育課作成の「生活指導管理表」に基づき食材の除去や緊急時や災害時の対応、保育園生活上の注意点について確認し、対応を決めている。面談に参加しない職員へは昼礼や会議で報告し、全職員で情報共有を行っている。
- ・給食、おやつ提供の誤食予防のため、調理室での受け取り時、保育室へ運んだ時、子どもへの配膳時、声を出してダブルチェックで除去食の確認をしている。食事介助の職員の固定、専用テーブルの使用により誤食やうっかり食材に触れることがないように配慮している。友達や保育者と楽しく食事を楽しめる場となるように、言葉がけや関わりを大切にしている。
- ・アレルギー性疾患のある子どもには日々連絡ノートを通して症状の変化、定期通院の予定やその結果などの情報共有を行い、子どもの状況把握を行っている。特にアトピー性皮膚炎についてはスキンケアが重要なため、子どもの様子、皮膚症状を観察し保護者に伝えている。乾燥する冬季には主治医の指示により処方薬を預かり、園でスキンケアをすることもある。春先の花粉症についても眼鏡の使用、処方された目薬や点鼻薬の投薬を行っている。
- ・職員は職種によらず食物アレルギーの研修に参加し、知識やエピペンの扱い方について学ぶ機会がある。園内研修でも緊急対応のシミュレーション訓練を実施している。他の子どもに対しては関心や年齢に応じて食事の違いや薬について説明している。また保育園に食べ物を持ち込まない、食べこぼしが衣服や顔についていないかの確認をお願いしている。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画、食育計画の立案時は保育計画・月齢と子どもの成長、月々の活動とつながる内容を計画し、さらにそこが目標となるように日々の声かけや指導を行っている。</li> <li>・保育活動の静と動の区別、時間配分や落ち着いて食事ができる環境設定や月齢にかかわらず扱いやすい食具の提供、食べやすい食事形態、さらに個別での対応を行い、半量での提供や喫食時にとり皿での調節を行っている。</li> <li>・調理保育や植栽活動を通じ、身近な食材から積極的に興味が持てるよう事前学習を含めて取り組んでいる。アクリル越しに給食室を見ることが出来る環境であり、においを感じて意欲にもつながっている。食材を見せたり、色分けボード、毎日の給食ボードから給食を楽しみにできるように配慮している。</li> <li>・行事食やお楽しみ献立など食に関する知識だけではなく、懇談会やおたより、号外の配布で各家庭に発信している。</li> <li>・日々の連絡ノートからの伝達や担任とのかかわりの中で家庭との情報共有を大切にしている。</li> </ul>	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の献立は旬の食材や行事を取り入れ、給食からも季節を感じられるようにしている。献立は園で作成しており、サイクルメニューではなく毎日違う献立で、様々な食材や味などを楽しめるようにしている。コロナ禍においては黙食としているため、会話は最小限にしているが食具の持ち方などの指導を行うようしている。</li> <li>・季節の行事では型抜きや盛り付けで見たいにも楽しくなるように、誕生会では年長児と一緒に献立を考えるなど様々な工夫がなされている。</li> <li>・栄養士は巡回によって喫食状況を確認し、量の調整も行っている。離乳食については担任や看護師、保護者と相談しながらすすめるようにしている。食の残菜や担任との話し合い、子どもとの会話から嗜好調査をしている。</li> <li>・調理室ではHCCAPや衛生管理マニュアルを作成し、会議内や実践を交えた研修等で共有し、各職員が意識し業務に臨んでいる。</li> </ul>	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児から2歳児までは連絡ノートと掲示板でその日の子どもの様子を報告するとともに、送迎時には必ず声をかけ話をするようにし保護者との関係性を大切にしている。</li> <li>・3歳児以上は掲示板にて1日の生活を報告、送迎時には必ず声をかけ話をするようにし保護者との関係性を大切にしている。またドキュメンテーションにて子どもの写真とその瞬間の様子を報告している。</li> <li>・4月と年度の後半にクラス懇談会を実施し、保育目標や子どもの様子を伝えるとともに意見交換を大切にしている。また、個人面談も実施して個々の保護者と子どもの育ちを話し合う場としている。コロナ禍において懇談会は市の施設でクラス入替制、短時間で実施するなどの工夫を行っている。</li> <li>・発表会や運動会、保育参加など子どもの成長を見てもらえる機会として大切にしている。</li> </ul>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者とのコミュニケーションは送迎時など声をかけることを大切にしている。特に入園当初は信頼関係を築くことを大切に接している。</li> <li>・保護者からの相談や悩み事については担任、施設長が対応しており、プライバシーに配慮し職員休憩室で個別に行うなど、落ち着いてじっくり話せる時間場所を設定している。その際は記録を残している。担任が対応できない案件には施設長が面談を行っている。</li> </ul>	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の受け入れ時の視診は丁寧に行い、子どもの変化を確認できるように取り組んでいる。</li> <li>・衛生面（入浴、髪の手入れ、爪、衣服の乱れ）なども注意深く観察するように努めている。虐待が疑われるような場合は、担任同士、主任、施設長に報告する流れとしており、施設長はマニュアルに沿って行政に報告する体制がある。</li> <li>・園内研修、資料の掲示などで職員に周知理解を深めるように取り組んでいる。外部の研修に参加した場合には、会議で報告し共有できるようにしている。</li> </ul>	

## A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<コメント>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月自己評価を実施しており、業務に対する振り返りと翌月にどう反映するかを考える場としている。日常的に振りかえることの必要性を感じることも目的の一つである。</li> <li>・法人の評価制度による自己評価に関しては、スキルアップを目的とし、自己目標達成について施設長面談を実施しながら進めている。自己を振り返り、学ぶべきことをしっかりと確認し、のばす努力をする、また専門性を伸ばす機会となっている。</li> </ul>	